

Final Presentation

Hajime Kaneto

全体の流れ

①スタンフォードe-Japanに
応募した理由

②スタンフォードe-Japanで
得られたこと

③新科目・Happy Learning

④未来へ向けての抱負

スタンフォードe-Japanとは

米スタンフォード大が主催

日本在住の高校生を対象とするオンライ
ンプログラム

約30名の生徒が集まり、1週間に1回
zoomでミーティング(Virtual Class,
VC)を行う

普段は、資料を読み込む課題のほか、
discussion boardというwebの掲示板で
VCのテーマに沿って意見をぶつけ合う



①スタンフォード e-Japanに応募した理由

①スタンフォードe-Japanに応募した理由

環境問題に関心があった！





①スタンフォードe-Japanに応募した理由

環境問題を解決するためには・・・

国境を越えて、利害を超えて協力することが必要

→環境問題に国境は関係ない

海や空はつながっている

一部の国や地域が問題解決に取り組んでも、他の人々が協力しなければ汚染は広がる

①スタンフォードe-Japanに応募した理由

自分が果たす役割は？

様々な専門分野、様々な立場の人が協力して問題解決にあたることができるような場づくり

①スタンフォードe-Japanに応募した理由

そのために今自分すべきことは？

①自分の音を受け止め

②多角的思考を身に付

スタンフォードe-Japanで、これらのことをがんばろう！

意見を的確に

る、柔軟な思

②スタンフォードe-Japan に参加してよかったこと

②スタンフォードe-Japanに参加してよかった
こと

その1.仲間が面白い

○英語力

ネイティブかと思わされる滑らかさ
自信をもって、スムーズに話す



「自分ももっと英語が使えるようになりたい！」
というモチベーションになった！

②スタンフォードe-Japanに参加してよかった
こと

その1.仲間が面白い

○様々なテーマへの関心が高い

discussion boardでは、国際関係や歴史、教育、
宗教など、様々なテーマが設定された
仲間からは、毎回、自分にはない経験や知識、疑問
などを得た



新しい視点を知ることの楽しさを知ることができた！

②スタンフォードe-Japanに参加してよかった
こと

その2.講師の方々が面白い

大学で専門的に研究している先生のお話
アメリカの学生との交流
ウイグル系の女性議員のお話
LGBTQで、僧侶で、メイクアップアーティストの方のお話



実体験を直接、本人に聞くことによって、
多様性を身近に感じられた！

②スタンフォードe-Japanに参加してよかった
こと

その3.講義のテーマが面白い

印象に残ったテーマ3選

1. 太平洋戦争と原子爆弾
→日本人の認識とアメリカ人の認識が違う！
2. アメリカの高校と教育
→生徒がやりたいことに挑戦できる教育の在り方を学ぶ！
3. ジェンダー平等
→日本はLGBTQを支援するための制度を整備すべき！

②スタンフォードe-Japanに参加してよかった
こと

スタンフォードe-Japanで感じたこと

• 心に壁はない

多様性は国際社会だけに存在するものではない

このプログラムに参加した30人だけでも、日本の中での住む場所、通う学校、所属する部活動によって生活が全然違う

人の数だけ人生がある

人の数だけ多様性がある

国が違う、見た目が違う、それは隣の席の子と自分が違うということと何の変りもない

③新科目 Happy Learning

③新科目・Happy Learning



将来、世界中の仲間と環境問題を解決したい！
そのために、みんながお互いを認め合って、協
力できるようにする、
そんな土壌をつくろう！

③新科目・Happy Learning

Happy Learning 概要

日米の高校生がオンラインで行う新しい教育の形
学生同士が、国や文化を越えて協力しながら、国際協力による国
際課題の解決について考える

まずは学校単位で提携を結び、実績をつくる
その後ネットワークを広げていく

Happy Learningですること

- 1.異文化交流
- 2.ロールプレイング
- 3.実践学習

①異文化交流

- お互いが住む地域のことについて紹介しあう
 - 食べ物
 - 行事
 - お気に入りの場所
- お互いの趣味について語り合う
 - スポーツ
 - アニメ
 - 音楽

★お互いの個人的な話題を話すことで、共通点を見つけ、親近感がわく

②ロールプレイング

歴史認識、環境問題、紛争、貧困など、さまざまな国際的トピックについて話し合う

- ①背景の調査
- ②問題の議論
- ③改善策の作成

★今の自分とは異なる視点に立ち、問題を考察してみることで、物事を多面的に捉える力が身につく

③実践学習

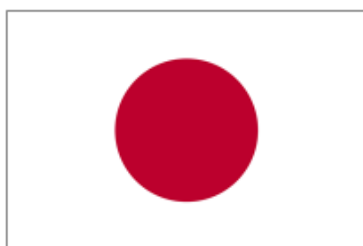
自分たちが興味のある社会の課題について

- ①自分たちの視点で解決策を作成
- ②実行プランに落とし込み
- ③イベントなどの形で実行
- ④プランに基づき反省、改善プランを作成

★社会問題の解決に直接結びつく
問題解決力や想像力を向上させる



Happy Learningを日米で行う意義



～Happy Learningを日米で行う意義～

①両国の影響力の大きさ

GDP アメリカ1位、日本3位
全体の30%を占める



- 経済的に大きな影響力を持つ
- その経済活動によって、様々な国際問題を生み出す原因を作っ
て来たとも言え、国際問題の解決にはたすべき責任も大きい

～Happy Learningを日米で行う意義～

②両国の断裂の歴史を克服

日本とアメリカは、第二次大戦や移民の強制収容など、深い断裂の歴史を持っている
その二国が過去の争いを克服し、今度は未来に向けて協力の歴史を一緒に創り上げようとすることは、国際協力への強いメッセージとなる

～Happy Learningを日米で行う意義～

③両国民の特性の違い

アメリカの教育においては、集団の中で強い個人であることを推奨し、日本の教育では、集団の中で自己犠牲を伴う優しい一員であることを推奨する傾向が強いことが指摘される

どちらが優れているということではなく、多民族国家である米国と、同質性の高い日本といった歴史や文化の背景の違いから、それぞれに特性がある

違いがあるということは、お互いにあるものを補うことができる

④未来へ向けての抱負

私のこれからの抱負

環境問題を解決したい

地球温暖化や生態系の崩壊、海洋汚染、大気汚染など、
私たちの生活に危険が迫る、喫緊の問題

私が果たす役割

利害関係を超えて協力するための仕組みづくり

私の夢

世界中の人たちと、分け隔てなく楽しく働く

私のこれからの抱負

○その先に目指すもの

協力や、助け合いの中で、自分の生んだものが人々を幸せにし、
そのことが自分をも幸せにする社会

生まれた場所や生まれ持った体にかかわらず、自分のやりたいこ
とに挑戦できる社会

危機が私たちを強くする

課題と一緒に取り組むことによって、協力関係が構築できる

みんなが自分の光を最大限引き出せる世界をつくる